あ ゆ み

令和５年度　和光幼稚園「園だより」

令和 5 年度を迎えて和光幼稚園も新しい体制がスタートしました。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。特に大きな行事は造形教育の研究大会です。その内容について紹介します。

第 31 回　佐賀県造形教育研究大会（嬉野藤津鹿島大会）

令和 5 年 11 月 2 日（木）には、和光幼稚園、大草野小学校、鹿島市立西部中学校において、大会テーマ「子どもがつくる、子どもが主役の造形教育」として、県内教職員が参集し、造形教育の研究会が開催されます。

幼稚園・保育園部のテーマは、「自発的な造形あそびによる豊かな感性の育成」です。

幼児教育では、自発的なあそびを通して、これからの時代に求められる創造性、想像性、主体性、コミュニケーション力、アイデア力、人間関係調整力などを育み、豊かな感性を育てることを目指しています。感性教育の極みである造形教育は、自然やものに対する美的感受性や美的感動を培う。つまり、幼児期において、十分に五感を働かせて、様々な造形的な体験をさせることで、豊かな感性は育成されます。

このことから、幼児教育における造形遊びでは、常にこども中心の子どもが主役となる自由遊びを取り入れることが大切であると考えます。そして、この造形遊びは、子どもありきからスタートし、こどもの主体的で創造的で、試行錯誤のある活動そのものを大切にしていきたいと考えます。

以上は、研究紀要の内容（抜粋）ですので少し専門的な言葉も入っています。和光幼稚園では自発的な造形あそびを次の 4 点に留意して進めています。①　環境づくりや材料、道具の準備が大切。例えば、木の実を置いて、「秋で遊ぼう」へつなげる。また、お店屋さんの写真を貼って、お店屋さんごっこへ導く。それぞれ違う遊びでよい。②　大人の造形感覚で子どもの活動や作品を見ない。子どもの創造性や材料との関わり、感触、感覚への気づきを大切にする。③　子どもの心の理解が大切。「アートはハートである。」心の動き、感動、感覚の快、感性が造形を生み出す。それから、美的感性の醸成につながる。④　保育者からの導きや関わり、声掛けが大切。教え過ぎや方向付けをしすぎない。声掛けはできるだけ具体的な内容で、美しいという観点をもってほめる。

令和３年度から造形教育の講師に来ていただいて、研究保育を行い、指導を受けてきました。さらに研究大会を契機として、子ども達が自発的にのびのびと造形あそびができるように進めてまいります